

英語教育で意見交換

全国の関係者がフォーラム

崇城大

全国の英語教育関係者が意見を交換する「ティーチング・ラーニングフォーラム」が4日、熊本市西区の崇城大であった。崇城大が英語教育の質向上を目的に毎年開いており、3回目。

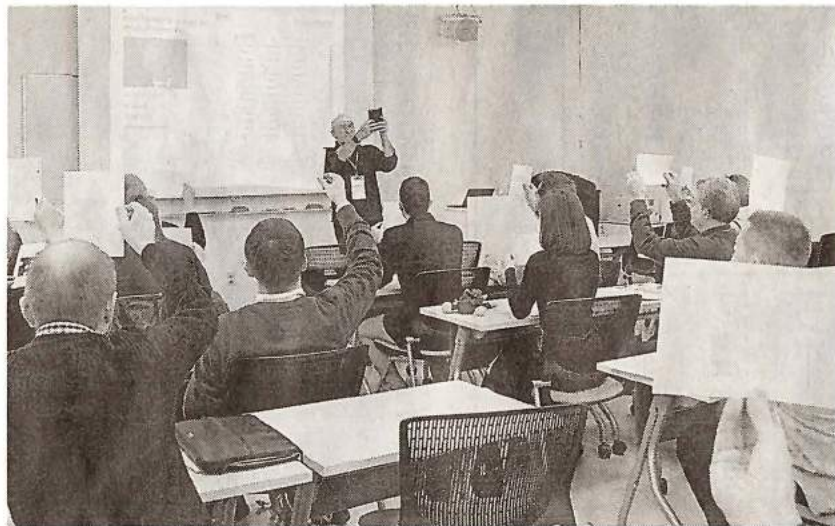
大学教授や高校教諭ら英語教育に携わる約100人が参加。今年は「学生が主体的に学ぶ英語教育」をテーマに、具体的な教授法や実験結果を発表するパネル展示と講演会があった。

西南女学院大（北九州市）で英語を教えるスワンソン・マルコム教授(61)は、QRコードを取り入れた授業について発表した。学生が設問の選択肢に応じ

てQRコードを印刷した紙を掲げ、教員がスマートフォンで教室全体を撮影すると、何人がど

の選択肢を選んだかがすぐに集計できる仕組み。学生が授業を楽しみと思うことで、積極性を高める効果があるという。

スワンソン教授は「九州で英語教育を語りあう機会は少ないので、このフォーラムは良い機会だ」と話した。（中村悠）



QRコードを使った授業を紹介するスワンソン・マルコム教授
熊本市西区